



平成19年4月11日  
宇宙航空研究開発機構  
ALOSプロジェクトマネージャ  
大澤 右二

## 陸域観測技術衛星「だいち」データ中継衛星通信部の 送信系統機器の冗長系への切り替えについて

宇宙航空研究開発機構(JAXA)が平成18年1月に打ち上げた陸域観測技術衛星「だいち」において、平成19年4月5日14時26分頃(日本時間、以下同じ)、データ中継技術衛星「こだま」に向けた観測データの伝送が、中断する事象が発生しました。

この状況を踏まえ JAXA では、これまで得られているテレメトリデータを基に事象の確認を行い、4月8日17時頃、データ中継衛星通信部の送信系統機器の冗長系への切り替え作業により、「だいち」は正常な状態に復帰しました。また、詳細な原因究明作業を、並行して継続しております。

なお、上記中断発生からデータ伝送再開までの間の観測データ取得は、「だいち」から地上局へ直接伝送を行いました。

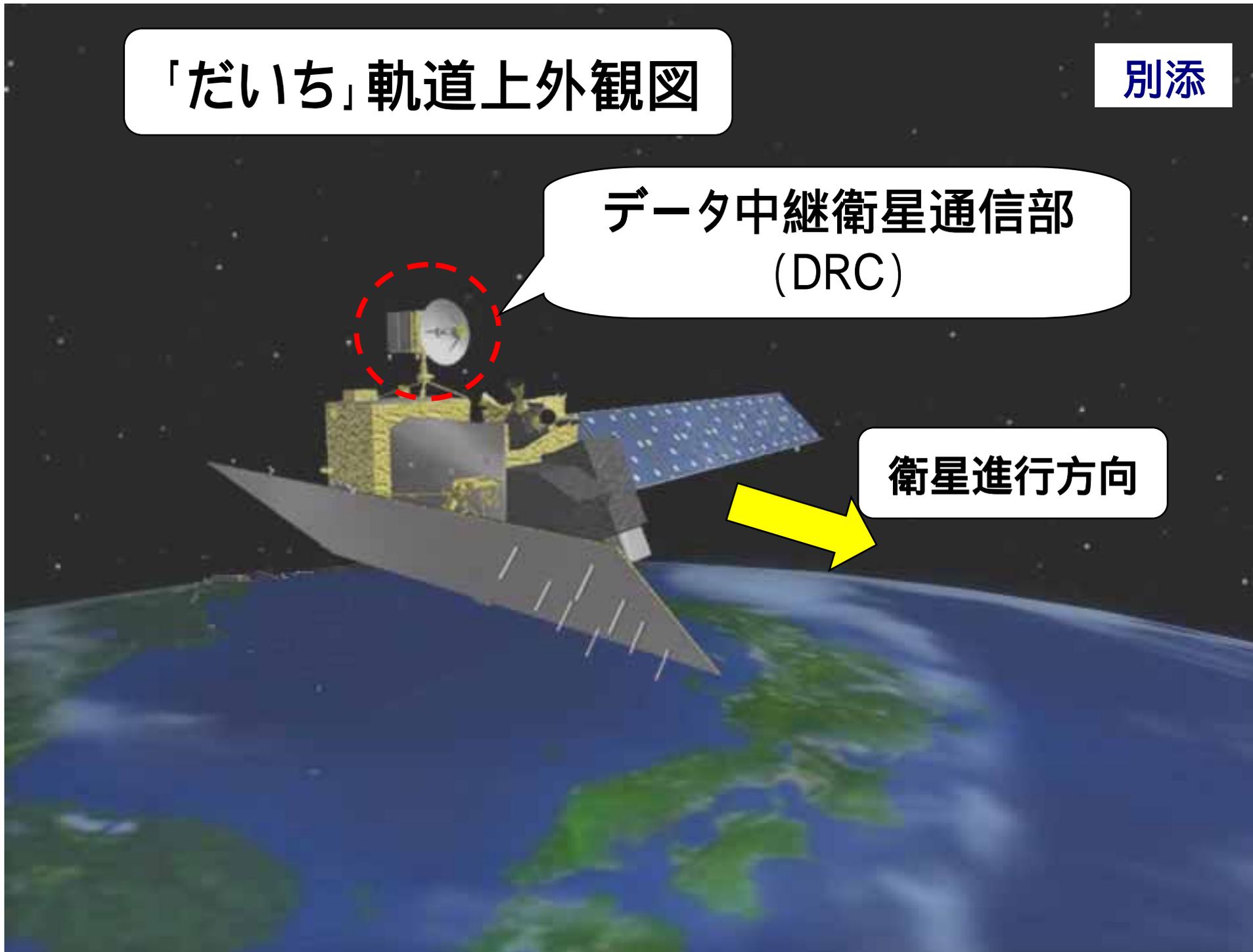
以上

# 「だいち」軌道上外観図

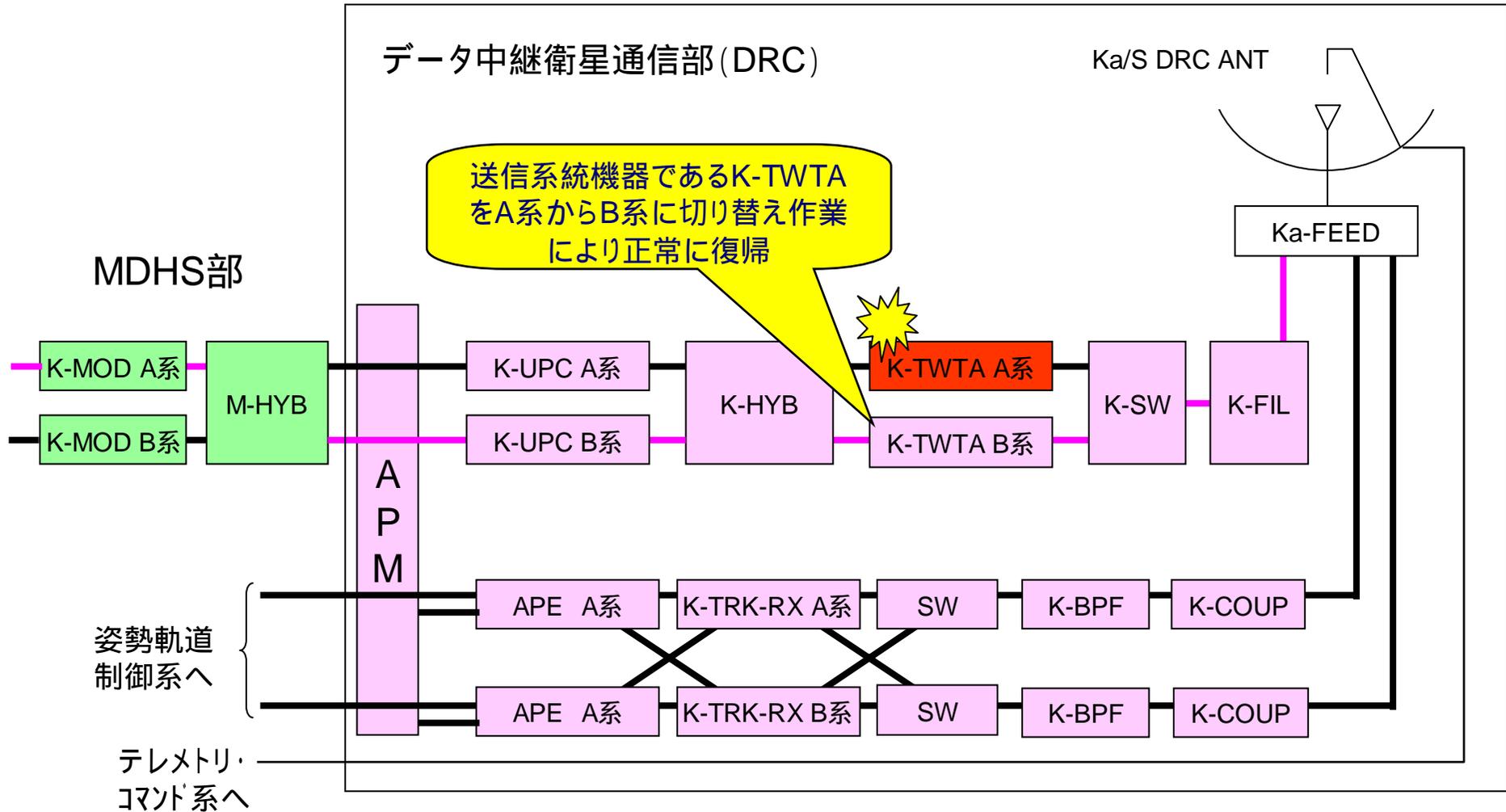
別添

データ中継衛星通信部  
(DRC)

衛星進行方向



# 「だいち」 データ中継衛星通信部 構成ブロック図



MDHS: ミッションデータ処理系、APM: アンテナ指向機構、K-UPC: Kバンドアップコンバータ、K-HYB: Kバンド・ハイブリッド、K-TWTA: Kバンド高出力増幅器、K-SW: Kバンド・スイッチ、K-FIL: Kバンドフィルタ、APE: アンテナ指向制御器、K-TRK-RX: Kバンド追尾受信機、K-BPF: Kバンドバンドパスフィルタ、K-COUP: Kバンドカップラ、Ka-FEED: Kaバンド一次放射器、K-MOD: Kバンド変調器、M-HYB: MDHSハイブリッド